

本校の学力向上の取組についての評価

(1) 効果があった取組

- **「みなかぜ塾」の実施**
 - ・金曜日6校時を「みなかぜ塾（復習タイム）」とし、低学年担任や担任外教職員を総動員して、4～6年生の学力向上を重点的に図る。
 - ・問題データベースを導入し、インターネット上にある各教科の問題集を活用する。
- **脳の活性化を図る「朝タイム（ぜんりよくタイム）」の実施**
 - ・毎週火・木曜日の朝タイム（8:40～8:55）に体を動かして脳を活性化する「ぜんりよくタイム」を実施する。
- **各教科における「書く」活動の重視**
 - ・学習のまとめや感想、学習日記、自分の考え、自己評価等を書く時間を毎時間（5分以上）位置づける。
 - ・ノート指導を大切にしたい指導の取組として、ノート名人（学級・全校）を学期に1回実施し、モデルとなるノートのまとめ方が分かるよう校内掲示を行う。
- **家庭学習の習慣化と家庭との連携**
 - ・「南風家庭教育のすすめ」の更なる啓発の場として、学校教育説明会を開催する。
 - ・4年生以上に自主学習の方法を指導する。
 - ・6月の学級集会時に、学力向上コーディネーターの指示により全校統一した家庭学習の支援について説明する。
- **学期2回の「漢字検定」の実施**
 - ・学期2回50問テストを実施する。
 - ・名人、達人、1級～6級の進級制とする。
- **「みなかぜ寺子屋」の実施**
 - ・地域の方々に、学習サポーターとして活動していただくよう協力を依頼し、土曜授業の日に「みなかぜ寺子屋」を開催する。
 - ・問題データベースを導入し、インターネット上にある各教科の問題集を活用する。
- **夏季休業中の「不登校対応学習会」の実施**
 - ・学力不振がもとで不登校傾向に陥ることのないようサポートする。
 - ・夏季休業開始直後3日間と終了直前3日間実施する。
- **夏季休業中の「地域人材活用学習会」の実施**
 - ・夏季休業中に3日間実施する。
 - ・市教委の学力支援事業を活用し、地域人材として大学生に指導してもらう。

(2) 改善を図る点

- **継続する取組の改善・充実**
 - ・継続する取組がマンネリ化しないよう、変化を付けて、子どもの意欲を高める。
- **相談委員会を中心とした個別支援の在り方を再検討**
 - ・学習に対する困り感をもった子どもの学びへの支援を組織的、協働的に行う。
 - ・学力向上コーディネーターを中心に、相談委員会と担任とがさらに共通理解を図る場を設ける。

今後の学力向上に対する取組

- 今年度実施した「みなかぜ塾」「ぜんりよくタイム」の成果と課題を明らかにして、学習に困り感をもった子どもたちへの支援をさらに検討する。
- 来年度に向けた学力向上に係る組織の見直しと充実、改善を図る。